

2021年度阪神高速研究助成(若手研究者助成) 研究概要書

申請者	所属 京都大学大学院工学研究科 職名 助教	フリガナ ナカオ サトシ 氏名 中尾 聡史
共同研究者	所属 京都大学経営管理大学院 職名 教授	フリガナ ヤマダ タダシ 氏名 山田 忠史
連絡先	所属 京都大学大学院工学研究科 職名 助教	フリガナ ナカオ サトシ 氏名 中尾 聡史
	住所 〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂 4 C1-2-434 電話 075-383-3235	
研究課題名	物語型情報がインフラ整備への支持意識に与える影響についての社会心理学研究 —大阪湾岸道路西伸部を事例として—	
研究結果	<p>1. 背景・目的</p> <p>インフラ整備は、地域住民の理解と支持を得ることで円滑に遂行される。しかし、インフラ整備が成熟してきた現代都市において、インフラ整備に対する関心は低いことから、インフラ整備がもたらす効果について認知されず、住民から支持を得ることは容易ではない。そこで、本研究では、インフラ整備に対する住民の支持意識を向上させることを企図して、物語型情報を用いた分析を行う。物語型情報とは、現実の出来事を物語風のプロットに従って配列することによって、その出来事全体の意味を明瞭にしようとするような言語表現を指し、人間の思考やコミュニケーション活動において重要な役割を担っていることが心理学において指摘されている。本研究では、インフラ整備の計画コンセプトやヒアリングから物語型情報を作成し、アンケート調査を通じて、その情報を住民に提示することで、当該インフラ整備に対する支持意識が向上するかどうかを検証した。なお、本研究で対象とするインフラ事業は、大阪湾岸道路西伸部建設事業とし、当該事業エリアである神戸市の市民を対象としたアンケート調査を行った。</p> <p>2. 実験方法</p> <p>物語性の定義を「2つ以上の物事が筋になってつながっていること」と「主語の意図性が明確に表されていること」の2つに定め、関係者へのヒアリングから物語型情報を作成した。その後、作成した物語型情報から物語性を取り除くことで説明型情報を作成した。</p> <p>そして、次のように尺度化した質問を作成した。まず、西伸部支持意識に関する尺度を「西伸部受容意識(西伸部を受容するかどうかなど)」と「西伸部公共利益増進期待(西伸部が神戸のためになると思うかなど)」の2要素6項目(7件法)で作成した。また、資料の読了による効果に関する尺度を、「印象鮮明性(西伸部のイメージが明確に湧いたかなど)」、「納得性(プロジェクトに納得したかなど)」、「関心向上性(西伸部への関心</p>	

が高まったかどうかなど)」、「自我関与性(西伸部を身近に感じるようになったかなど)」の4要素24項目(5件法)で作成した(これら4要素をまとめて読了効果と呼ぶ)。

アンケート調査は、Webアンケート会社に依頼し、2021年12月10日から13日にかけて行った。年齢や性別に偏りが出ないように、20代、30代、40代、50代、60代以上の神戸市在住の男女100名ずつの計1000名を対象にWeb上で、アンケート調査を行った。そのうち半数には物語型情報を提示、残りの半数には説明型情報を提示した。まず、被験者は個人属性などの質問に回答した後、西伸部に関する簡単な情報を確認し、西伸部を知っているかどうかの質問や、西伸部支持意識の質問に回答する。物語型情報もしくは説明型情報を確認した後、もう一度西伸部支持意識の項目に回答する。その後、読了効果の項目に回答し、最後に感想を自由記述で回答してもらった。

また、物語読了による持続効果を調査するため、1回目の調査から約2ヶ月後の2022年2月16日から22日にかけて、同様の1000名に対して追跡調査を行った。質問項目は、西伸部支持意識などである。回答率は、物語群(物語型情報を読了した集団)が71.0%(355名)、説明群(説明型情報を読了した集団)が75.4%(377名)であった。

3. 西伸部支持意識への影響

物語群を対象に、西伸部受容意識と西伸部公共利益増進期待の各質問の加算平均の資料読了前後の平均値の差についてt検定を行った(表-1)。いずれの尺度についても、有意水準5%で統計的に有意かつ平均値の差が正となった。この結果は、物語型情報を読了することによって、西伸部への支持意識が向上することを示すものである。なお、統制群を対象に同様に分析したところ、上記と同様の結果が得られたが、平均値の差が物語群の方が大きかったことから、説明型情報よりも物語型情報の方が支持意識をより向上させることが考えられる。

表-1 支持意識の前後比較 (t検定)

尺度	提示前平均	提示後平均	平均差	t	p
受容意識	4.61	4.84	0.23	6.43	0.00
公共利益増進期待	4.39	4.70	0.31	8.08	0.00

4. 物語性による読了効果の相違

物語群と説明群との間における読了効果を比較するために、印象鮮明性、納得性、関心向上性、自我関与性を従属変数、物語群ダミー(物語群=1, 説明群=0)を説明変数、資料読了前の西伸部支持意識を統制変数として、すべてのサンプル(N=1000)に対して、重回帰分析を行った(表-2)。その結果、印象鮮明性(西伸部について鮮明な印象を得たかどうかの尺度)は、説明群よりも物語群の方が有意に高いことが確認された。印象鮮明性の尺度は西伸部に関わった人々の思いに関する質問項目などで構成されており、今回採用した物語の定義である「主体意図性」が影響を与えたと考えられる。

表-2 物語群と説明群の比較（重回帰分析）

従属変数	説明変数	標準化係数	t	p
印象鮮明性	物語群ダミー	0.08	2.81	0.01
	支持意識	0.44	15.27	0.00
納得性	物語群ダミー	0.03	1.25	0.21
	支持意識	0.52	18.99	0.00
関心向上性	物語群ダミー	0.05	1.60	0.11
	支持意識	0.44	15.57	0.00
自我関与性	物語群ダミー	0.02	0.85	0.40
	支持意識	0.53	19.69	0.00

5. 支持意識の持続効果

物語型情報が支持意識に与える中長期的な影響を検証するため、物語群(355名)と説明群(377名)の支持意識の平均値の推移を図-1に示した。物語型情報の読了直後においては、支持意識が増加するが、約2ヶ月後には読了前と同程度の水準に減少していることが分かる。一方で、説明群については、読了前の水準よりも低下した。ただし、物語群のうち、2ヶ月後の支持意識が物語読了前よりも増加した被験者は157名(44.2%)であり、説明群の147名(39.0%)よりも大きかった。このことより、説明型情報よりも物語型情報を提示する方が、より多くの人々に対して、長期的に支持意識を向上させる上で効果的であったといえよう。

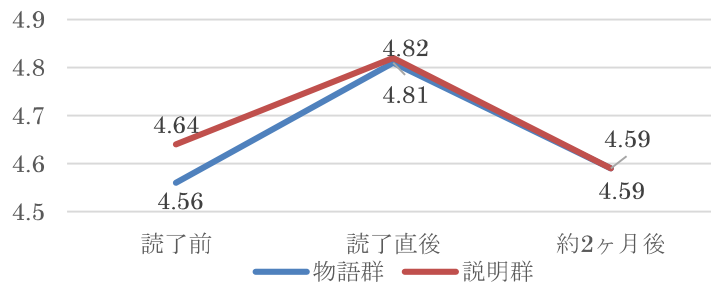


図-1 物語群と説明群の支持意識の推移

6. おわりに

本研究では、西伸部建設事業に関する情報を物語形式で伝達することで、地域住民の西伸部に対する支持意識が向上するかどうかを検証した。その結果、物語型情報は、西伸部に対する支持意識を向上させること、そして、説明型情報と比較して、鮮明な印象を与え、より多くの人々に対して中長期的に支持意識を向上させることが確認された。本研究で得られた知見は、合意形成の場における物語型情報の有効性を示唆するものであると考えられる。なお、本研究では、物型の効果を測定するため、あえて図や数値情報を資料に記載しなかった。物語型情報を提示する際は、インフラの完成イメージ図やインフラ整備の事業費や経済効果などの数値情報を提示することで、住民の関心をより高めることができると考えられる。